

令和元年度

事業報告書

社会福祉法人たつき会

1. はじめに

■法人事業概要

事業所名	介護老人福祉施設スミール桜ヶ丘
事業開始日	平成 27 年 12 月 1 日
第一種社会福祉事業	特別養護老人ホーム事業 (定員)100 名
第二種社会福祉事業	老人短期入所事業 (定員)10 名

■介護業界を取り巻く状況

元号が改変された令和元年度も介護業界にとって様々な出来事がありました。

4月の働き方改革に伴う法改正では、当法人では人員配置に問題なく、またこれまでも高い有給消化率を確保していたことから大きな混乱はありませんでしたが、人手不足が深刻な介護業界では大きくその対応に追われる企業があったかと思います。9月の台風15号及び19号により、各地の介護施設でも甚大な被害に見舞われました。当施設では出勤方法や地域状況などを勘案して職員・入居者様の安全を確保致しました。10月の消費税増では、同時に改定された介護報酬は微増に留まり、施設の負担は増えてしまっています。サービス提供に対する責任として、サービス提供時の事故について、職員個人が刑事責任を問われる(有罪となる)判決が全国で続いたことも大きな驚きでした。

今後の介護報酬改定では「介護の質」を評価する動きが加速しそうで、既に2018年度の改訂で排泄や褥瘡の状態改善のプロセスを評価される加算が創設されていますが、来年に予定されている次期改定では更にアウトカム評価の拡充が論点に掲げられ、実際に状態が改善されたかを評価する仕組みが導入される可能性があります。

尚、令和2年1月以降の新型コロナウイルス感染症対策としては、未だ収束が見えない中、平時の業務や計画の多くが行えず、サービス全般で非常に緊張感が続いております。介護保険においても、様々な特例措置が取られており、過去に経験したことがないような対応を迫られている状況です。

このような状況下ではございますが、社会福祉法人たつき会は令和元年10月に法人設立5周年を迎えることができ、令和2年12月にはスミール桜ヶ丘としても開所5周年を迎えることとなります。職員一同、今後益々変化していく時代に対応していくと共に、更なる飛躍に向けチャレンジしていく所存です。

介護業界に影響を及ぼした主な出来事

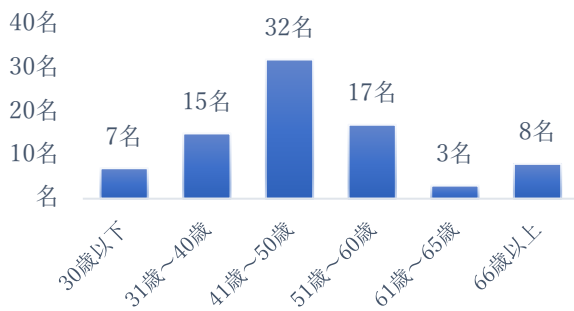
4月	働き方改革関連法案施行
5月	元号改変
9月	台風15号(房総半島台風)
10月	介護報酬改定
10月	介護職員等特定処遇改善加算開始
10月	台風19号(東日本台風)
2月	新型コロナウイルス感染症拡大始る

2. 職員状況(令和2年3月31日現在)

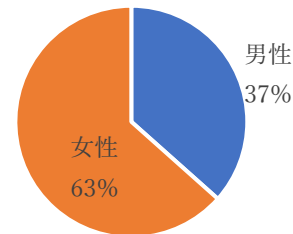
	施設長	業務部長	介護支援専門員	生活相談員	管理栄養士	機能訓練指導員	看護職員	介護職員	介護補助員	事務員	宿直員	合計
職員数	1	1	2	2	1	1	11	50	7	2	4	82

※職員数は非常勤(パート職員)を含む

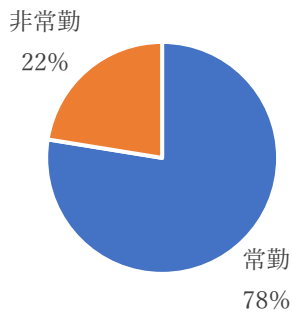
■職員年齢構成



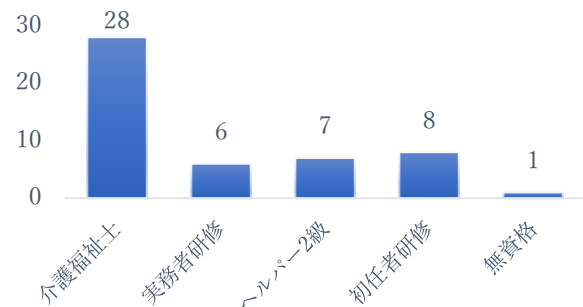
■職員男女割合



■常勤/非常勤割合(介護職員のみ)



■資格者構成(介護職員のみ)



3. 会議・委員会

会議名	参加者	実施状況	主な内容
職員会議	全職員	12回/年	施設運営に関する重要事項について情報の共有/ 新人職員紹介/研修報告/業務上の伝達事項
運営会議	施設長/役職者/専門職	12回/年	施設運営に関する業務進捗・結果等の報告と検討 事項の意思決定/問題事項の改善議論
リーダー会議	係長/ユニットリーダー	12回/年	業務遂行に関する事項の情報伝達・意見収集
ユニット会議	介護職員/専門職	15回/年	各ユニット単位で入居者様それぞれについて個別の ケア内容情報の共有

給食会議	役職者／管理栄養士 ／委託業者社員	12回／年	給食委託先社員を交えて適切な食事提供に関する協議
ケアカンファレンス (サービス担当者会議)	介護支援専門員／専門職 ／介護職員	120件／年	個々のよりよいサービス提供のために情報の共有や共通理解を図る

委員会	実施状況	令和元年度の主な取り組み
入退所判定委員会	15回／年	入所の決定及び退所の検討を行い、待機者の方の入居順位を評価した。
褥瘡対策委員会	12回／年	一人ひとりの評価に基づき、予防・悪化防止・治癒促進に取り組んだ。
感染症対策委員会	12回／年	感染症マニュアルの整備を行う。今年度もインフルエンザ感染者ゼロを達成。
リスクマネジメント委員会	12回／年	介護事故の原因・対策など記録の内容共有によりリスクマネジメントに役立てた。
安全衛生委員会	12回／年	職場の定期巡視実施、及び職員の健康保持増進のため健康企業宣言を行う。
身体拘束適正化委員会	11回／年	身体拘束廃止に関わる個別の検討、及び権利擁護に関する指導。

4. 行事

4月	お花見	9月	敬老会	12月	クリスマス
5月	母の日会	10月	運動会	1月	お屠蘇
6月	父の日会	10月	ハロウィン	2月	節分
7月	七夕まつり	11月	文化祭	2月	バレンタインデー
8月	夏祭り	12月	3周年祭	3月	ホワイトデー

5. 令和元年度介護老人福祉施設スミール桜ヶ丘事業目標実績報告

I 入居者様の「その人らしさ」「思い」「生きざま」を尊重した生活の場を提供していく

毎月実施しているカンファレンスには積極的にご家族の参加を促し、ご本人やご家族の視点に近づいたプラン内容に繋げることができました。加えて10月に開催した事業運営に関するご家族向けの説明会の際に、延命治療における意向を改めて確認し、同時期に満足度調査を実施するなど、入居者様とご家族様の思いをサービス提供に反映し、多職種で共有していくことに努めました。ご本人の自立支援・重度化防止に資する介護を推進するため、協力病院の協力のもと、新たに理学療法士との連携、形成外科や皮膚科の往診を開始しました。このことにより新たに生活機能向上連携加算の算定に繋がりました。食事提供等にも工夫を凝らし、食物繊維の摂取量を増やしたり腸内環境を整えられるような取り組みを行いました。

生活の場としての機能を果たすために、既存のイベントやサークル活動の開催に加え、新たに入居者様が自ら参加できる「お買い物イベント」や「不在者投票」を施設内で実施しました。

■サークル活動

サークル名	主な内容	実施状況
書道	作品は施設掲示のほか、大和市文化創造拠点シリウスで発表されました。	毎週月曜日
ベタンク	テニスボールを使い投げる動作や狙いを定める行為で身体機能と脳を刺激する。(夏季)	毎週水曜日
風船バレー	ゲーム感覚で楽しみながら身体機能を活性化していただく。(冬季)	毎週水曜日
カラオケ	童謡だけでなく、懐かしの歌謡曲などを自ら選曲してマイクを持って歌っていただく。	毎週土曜日 (いづれか)
体操	阿波踊りの動きや音楽を活用して、座位で行える体操を行い、健康づくりに取り組む。	
Enjoy Cooking	入居者様自ら具材を切ったり、簡単な調理をして、出来上がったものを召し上がっていただく。	
お散歩	施設の周りや花壇を見て回ったり、近隣の公園に外出をする。	
囲碁・将棋	ボランティアの方を招いて、男性入居者様と対局していただく。	毎週水曜日
オカリナ鑑賞	ボランティアの方を招いて、地域交流ホールにて唄いながら鑑賞会を行う。	毎月1回

■実演調理

4月	天ぷらそば(わかみどり)	8月	精進揚げ(しおさい)	12月	カルピビンパ(ようこう)
5月	パンバイキング(のぎく)	9月	パスタ(あさなぎ)	1月	焼きそば(ひなた)
6月	海鮮焼きそば(ゆうなぎ)	10月	鉄板餃子(たいよう)	2月	パスタ(あさひ)
7月	そば打ち体験(全体)	11月	握りずし(全体)	3月	天ぷら(しゅんよう)

■満足度調査

【調査日】	令和元年9月
【対象】	ご家族様(契約者様)
【回答数】	84件

II 職員それぞれが多様な能力を発揮することでチーム全体の対応力を高めサービスの質の向上を図る

職位・職種に応じて正規職員のほとんどを様々な外部研修へ参加する機会をつくりました。このことは資質向上のみならず、個々の意欲の向上にも寄与できたと考えられます。

毎月行う施設内研修では、その多くを外部講師の招聘をしたことで専門的な知識の習得ができ、またその内容を録画して、全職員が視聴する機会を設けたことで、知識と情報の共有が可能となりました。

苦情・要望については、その内容に対処するに留まらず、以後の施設サービス向上へ繋がるよう意識付けと情報の共有を行いました。尚、全件につき解決・了承いただいております。

ユニット費の用途権限を各ユニットリーダーに委譲し自由な選択肢を与えユニットケアの充実に努めました。スタッフと入居者様が相談しながら使い道を考えることでユニット独自で要望に応える取り組みができました。

■施設内研修(スキルアップ研修)の開催

4月	疾患の理解や医療の知識～嚥下機能について～	10月	事故発生の防止、及び身体拘束廃止について
5月	感染症対策～高齢者介護施設における感染対策～	11月	感染症対策～施設における感染症予防対策～
6月	非常災害対策	12月	非常災害対策
7月	介護技術～紙おむつ勉強会～	1月	法令遵守
8月	メンタルヘルス～介護者のアンガーマネジメント～	2月	メンタルヘルス～ストレスで生じる心の変化と対処法～
9月	褥瘡予防～シーティングによる効果～	3月	事故発生の防止、及び身体拘束廃止について

■主な外部研修への参加

管理職向け
防火管理新規講習(4月)／管理職・リーダーのための指導力養成研修(5月)／介護主任の役割とリーダーシップ(6月)／介護事業経営マネジメントセミナー(7月)／特定処遇改善加算解説と対策セミナー(7月)／健康保険委員研修会(9月)／リーダーシップ強化実践講座(9月)／個人情報保護法研修会(10月)／介護職へのハラスメント対応(10月)／介護労働者雇用管理責任者講習(11月)／セクハラ・パワハラ防止研修(11月)／障害者雇用促進セミナー(11月)／働き方改革労働契約等解説セミナー(11月)／高齢者権利擁護に関する研修(2月)
専門職向け
介護事故・トラブルによる事故後の対処法セミナー(5月)／特定給食施設等講習会(5月)／福祉車両安全運転講習(6月)／皮膚トラブル予防と対処法(6月)／介護保険請求事務の仕組み(7月)／認知症高齢者の医学的理解とケア(7月)／成年後見制度の実践活用講座(7月)／病院・施設における災害対策(7月)／理想の施設を定義しよう(8月)／現場に活かすケア計画の考え方(8月)／高齢者の精神疾患の理解と対応(9月)／食事摂取量を増やす食事の工夫(10月)／ディズニアアカデミー(10月)／栄養ケア・新調理システム・摂食口腔機能改善(11月)／摂食嚥下機能の基礎知識と対応方法(12月)／統合失調症の理解と支援(12月)
介護職(中級)
すぐに実践したくなる！教えたくなる！「はいよいしょ」講座(4月)／拘縮・褥瘡を防ぐポジショニング・シーティング講座(5月)／認知症の行動心理症状(BPSD)の理解と支援(6月)／介護職のための薬学知識(7月)／生活支援場面における介助技術(8月)／排泄障害のアセスメントと改善ケア(9月)／介護現場に求められるリスクマネジメント(9月)／ユニットリーダー研修(10月・11月)／身体の動作評価と機能訓練(10月)
介護職(初級)
新入社員研修(4月・6月)／新任介護施設職員合同研修会(4月)／介護技術の基本(4月)／満足度100%の感動接遇(4月)／普通救命講習(5月)／認知症の基本知識とケア(5月)／もう悩まない！コミュニケーションのとりせつ(7月)／ノロウイルス・インフルエンザ感染症対策・疥癬の知識と対処法(9月)／人の動きについて学ぶキネステティックとは(9月)／感染予防と対策について(10月)／腰痛予防対策講習会(10月)／生理学を根拠とした介護技術学(11月)

■苦情・相談受付

時期	区分	内容	申立人	対応
6月	特養	夜勤職員の対応について	本人	別の入居者の対応があったことを説明する。
6月	特養	衣類について	家族	漂白で色落ちしたことの謝罪と、着用衣類への意識向上。
9月	特養	外出前の排泄対応について	家族	連絡調整不足を謝罪する。
10月	特養	備品の取り扱いについて	家族	状況を説明して理解を求める。
10月	特養	利用者対応について	家族	状況を説明して理解を求める。
10月	特養	物品管理について	家族	職員の置き忘れを謝罪する。
11月	特養	利用者処遇について	本人	状況をご家族にも説明して理解を求める。
12月	特養	家族連絡について	家族	謝罪をして今後の対応について協議する。
12月	ショート	期間中の利用終了対応について	家族	契約内容や他利用者との集団生活であることを説明する。

■介護相談員派遣等事業

【事業主体】	大和市健康福祉部介護保険課
【相談員】	中村 浩子
【訪問回数】	8回／年

Ⅲ 厳しい人材確保市場において、人材の確保・定着を未来への投資戦略として積極的に行う

就職説明会や面接会への積極的な参加により、人材の確保に一定の効果があつたことに加え、人材の定着と職場環境の向上に努めてきました。法人の健全な持続と入居者様にとっての安心安全な施設運営のためには、職員の健康こそが重要との考えから健康経営を目指し「かながわ健康企業」を宣言して、施設長を健康づくり担当者として、職員が心身ともに健康でいきいきと働ける職場環境の構築を目指しました。その一例として、平成31年4月より年間休日を増やし、よりワークライフバランスの向上に取り組みました。

昨年度に初めて受け入れた新卒採用者に対しては、研修期間を十分に確保して、全職種との関わりを持つ機会を設けました。施設内での OJT と施設外研修等を織り交ぜ、介護職のみならず専門職や事務職・給食スタッフ・施設外の人々と交流し、社会人としてのスタートにしっかり学びの経験を経て職務に就かせることができました。

■主な就職説明会の参加状況

5月	藤仁館医療福祉カレッジ事業所PR	9月	ハローワークミニ面接会
5月	東部総合職業技術校事業所PR	10月	福祉のしごとフェア
6月	西部職業技術校合同就職説明会	11月	福祉のしごと地域就職相談会
6月	県央地区企業と学校との就職情報交換会	11月	ハローワーク面接会
6月	企業と高等学校との就職情報交換会	12月	西部総合職業技術校合同就職説明会

IV 持続可能な施設運営を目指さず

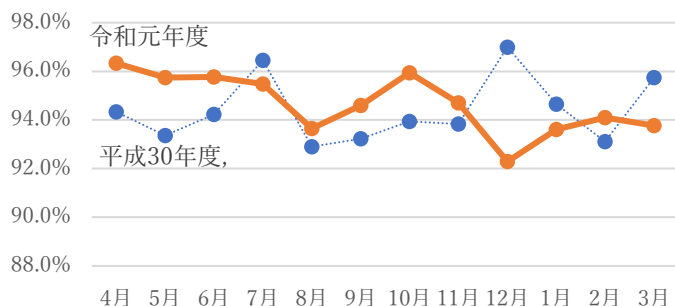
気温が変化する冬に一時的に入院される方が多く発生した月もあるが、概ね年間を通して安定した稼働ができ、稼働率 94.7%を達成しました。また、待機となっている方へ入所前の健診等の必要手続きを早めに依頼してきたことで、入所をスムーズにできたのも要因の一つと考えられます。

開所以来 4 年が経過して、所々の備品の経年劣化がみられています。必要な経費として備品購入費が上昇していますが、光熱費について3期比較で職員に周知するなど意識改革も進み昨対73万円の削減、また、正規職員の定着ができたことで、派遣契約を全て解消できたことで昨対1300万円の経費削減も同時に達成することができました。法人として健全な運営を目指すためにも、「かながわ健康企業宣言」のエントリーや「やまと高齢者あんしんネットワーク」への参画などの取り組みが公表されることで、法人としてのイメージの向上に繋がられたと考えています。

■稼働率推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
延べ人数	2890名	2968名	2873名	2960名	2903名	2838名
稼働率	96.3%	95.7%	95.8%	95.5%	93.6%	94.6%
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ人数	2974名	2841名	2861名	2902名	2729名	2907名
稼働率	95.9%	94.7%	92.3%	93.6%	94.1%	93.8%

(参考)稼働率前年度比

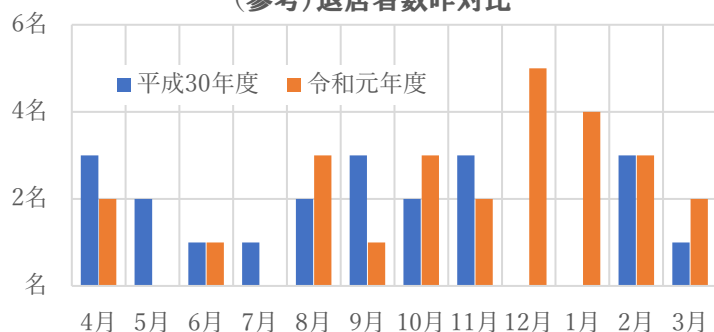


	計	
	(R1年度)	(H30年度)
延べ人数	34646名	34461名
稼働率	94.7%	94.4%

■入退居状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
入居	1名	1名	1名	0名	2名	1名
退居	2名	0名	1名	0名	3名	1名
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入居	3名	3名	3名	4名	2名	4名
退居	3名	2名	5名	4名	3名	2名

(参考)退居者数昨対比



	計	
	(R1年度)	(H30年度)
入居	25名	22名
退居	26名	21名

V 介護に関するノウハウを持つ地域の資源として人材や施設機能を使い様々な役割を果たしていく

前年度に引き続き、地域住民に向けたセミナーの開催や、訓練校などへの福祉教育としての講師派遣を行っています。同様に近隣の学校からの社会体験やボランティアを受け入れている中で、今期は訓練機関から資格取得に必要な実習先として受講生の受け入れを行いました。市内の介護事業者と合同で行った発表会において、日頃の業務の取り組みをまとめた内容を地域の方や同業者へも発信しました。大和市と大和警察署が共同設立した「やまと高齢者あんしんネットワーク」に参画しています。今後も地域の安心安全に係る事業所としての役割を果たしていきます。

■実習・職場体験の受け入れ

4月	籐仁館医療福祉カレッジ(初任者研修実習)
7月	大和東高校(社会体験)
10月	ひなた山支援学校
11月	西部職業訓練技術校(初任者研修校外実習)
1月	上和田中学(職場体験学習)

■講師派遣

9月	やまと得する街のゼミナール
10月	介護に関する入門的研修
1月	上和田中学校職業体験講話
通年	柏木実業専門学校研修センター

■ボランティアの受け入れ

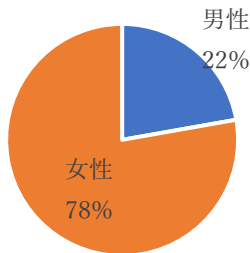
オカリナ演奏	9回/年
アロマハンドマッサージ	10回/年
囲碁対決	10回/年
音楽イベント	4回/年
栄真学園	17回/年

■主な地域との関わり

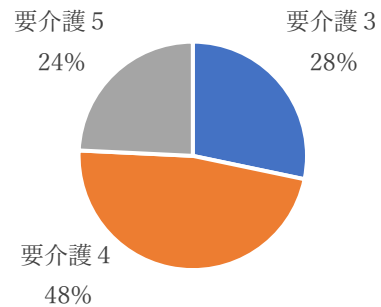
4月	現場を見て知る見学会
7月	宮久保自治会施設見学
7月	宮久保自治会納涼祭への参加と飾り物提供
9月	やまと得する街のゼミナール
8月	地域ケア会議に地域交流ホール貸し出し
11月	やまと産業フェア出展
1月	八坂囃子連による獅子舞披露
2月	やまと得する街のゼミナール
通年	谷戸頭自治会への地域交流ホール定期貸出

6. 介護老人福祉施設スミール桜ヶ丘入居者状況(令和2年3月31日現在)

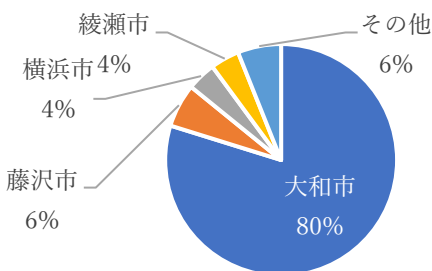
■入居者男女割合



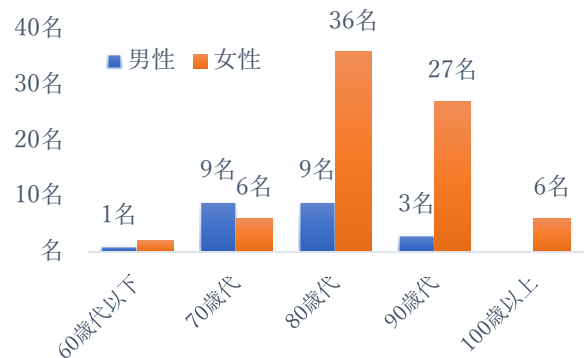
■入居者要介護度割合



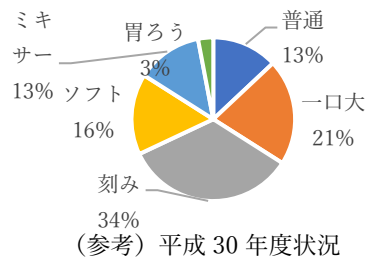
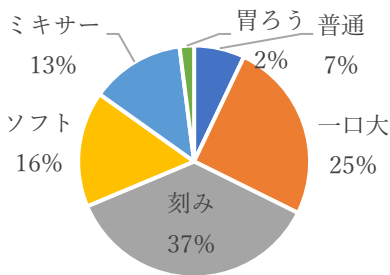
■保険者別入居者割合



■入居者男女年齢別状況



■食事の提供状況



7. 令和元年度短期入所生活介護スミール桜ヶ丘事業目標実績報告

I 利用者ごとの生活環境・習慣等が継続できるような環境づくりを行い、利用者本位のサービス提供を講じる。

短期入所生活介護事業の担当介護職員を増員したことで、サービス担当者会議や契約時に介護職員が参加する機会を増やすことができました。このことで、よりご本人のみならず、ご家族や担当ケアマネージャーと目標や課題を共有することが可能となりました。また、ご家庭での生活環境を可能な限り維持するために、介護用具を充実させると共に、利用居室内の設備環境を整えることに努めました。

II ご家族など介護者からの信頼を深め継続的な利用につなげる

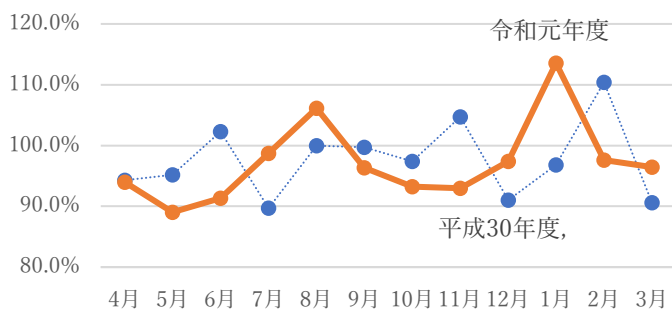
ご利用期間中に行ったレクリエーションでの作品や写真などを持ち帰っていただき、滞在中のご様子をご家族にも

把握してもらい、専門職や介護職員から状況の情報を提供していき信頼関係に繋がりました。利用者の要望に応えられるよう努めました。

■稼働状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	29名	29名	28名	25名	23名	21名
延べ人数	282名	276名	274名	306名	329名	289名
稼働率	94.0%	89.0%	91.3%	98.7%	106.1%	96.3%
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実人数	21名	23名	25名	25名	26名	23名
延べ人数	289名	279名	302名	352名	283名	299名
稼働率	93.2%	93.0%	97.4%	113.5%	97.6%	96.5%

(参考)稼働率前年度比



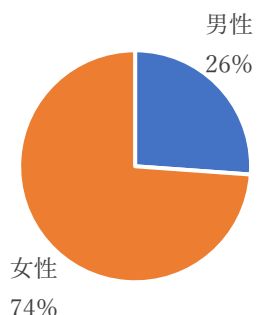
	計	
	(R1年度)	(H30年度)
実人数	85名	75名
延人数	3560名	3560名
稼働率	97.3%	97.5%

III 稼働率95%の確保

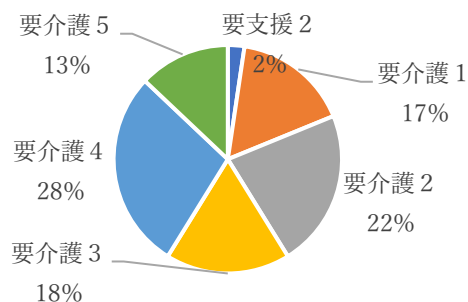
近隣の居宅支援事業所のみならず、市外の事業所との連携とコミュニケーションを心掛け、最新の空室情報を発信しました。長期の入院等が見込まれる特養入居者の居室をショートステイの空床利用として活用させていただいたことで、緊急の利用要請にも対応したことが稼働率の確保ができた要因の一つだと考えています。また、このことで施設全体としてショートステイ運営に協力する体制が築けています。

8. 短期入所生活介護スミール桜ヶ丘利用者状況(令和元年度)

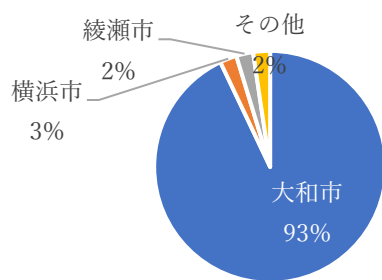
■利用者男女割合



■利用者要介護度割合



■保険者別利用者割合



■利用者年齢別状況

